

水質汚染と私たちができること

かいせいちゅうがっこう 二年
開星中学校 二年

つもり さくら
津森 咲良

水は私たち人類にとって欠かせないものになっています。水は、色々な目的に使われていて、例えば、「飲み水」「トイレ」「料理」など、「生活用水」として使われているものが多いと思います。私は、生活用水として使われているほどなので、安心安全で飲んだり使えたりできるんだと思っていました。ですが、実際は、世界の六億六千三百万人もの人々が安心安全で飲める水が身近になく、困っているということが分かりました。

今、持続可能な開発目標としてSDGsというものがあります。SDGsとは、2015年国連サミットで採択された、2030年までに持続可能でより良い世界を目指す国連目標で、17項目の目標とそれらを達成するための169のターゲットで構成されています。そのSDGsの六番目にある「安全な水とトイレを世界中に」という目標があります。さっき言ったように、世界の六億六千三百万人もの人が綺麗な水を手に入れられず、池や川、井戸などの清潔で安全ではない水を汲んで飲んでいます。しかも、多くの国では、水汲みは子供の仕事で学校にも行けない子供の中にはいるそうです。池や川などの水は、細菌が多くいて、免疫力があまりない子供に飲ませると下痢を起こしてしまい、下痢などの病気が原因で、最悪の場合は死に至ることもあります。清潔ではない水を飲んで命を落としてしまう人は、年間で三十万人、毎日で、800人以上もいるんだそうです。そして、世界中の人たちが水汲みに費やす時間は、一日当たり二億時間。水を手に入れるだけでこんなにも生活や時間を割いてしまっていることに愕きました。せっかく時間や体力を割いて毎日毎日、自分のため、家族のために水を汲んできているのに、その水を飲んでしまうと、下痢などの病気を起こして最悪の場合、死んでしまうんじゃないかと考えるとすごく悲しくなります。毎日学校にも行けず、友達にも会えず、こんな生活を送っていたら、私だったら水を汲むのを諦めてしまうかもしれませぬ。でも、諦めずに毎日水を汲みに行っている子供たちは本当にすごいんだなと思いました。

この悲しい現実を無くすために、「ユニセフ」というところでは、子供たちが地域の中でいつでも安全な水を使えるように、世界中の村々や、学校、保護センターなどに給水所を設置しているようです。そして、嬉しいことに、給水所ができた地域では、下痢などの病気が減って、手洗いなどの衛生習慣が付き、子供たちは、元気になってきているようです。そして、給水システムが破壊されたシリアの紛争地やアフリカの干ばつ被災地など、昨年的一年間だけで、子供を含む、1360万人の人々に給水を行い、多くの命を助けています。

私は、毎日学校にも行けて、友達にも会えて、楽しい生活を送れているが、当たり前だと思っていました。ですが、私が気が付けていなかっただけで、世界中には私と同じ年齢の子供、あるいは、それ以下の子たちが一生懸命、毎日、命がけで水を手に入れて大変な生活をしているということを知りました。その子供たちのためにも、未来の子たちのためにも、今私たちができることは、未来の人たちが満足して使えるように、節水をしたり、むやみに水を使わないなどのことができると思います。私も、水の無駄遣いはしないように心掛けて生活していきたいと思います。私が大人になって、就職して、お金を稼ぐことができれば、世界の困っている人たちに少しでも給付して支援をして、少しでも役に立てたらなと思います。